公益財団法人 日本ハンドボール協会編　平成25年 5月1日発行（毎月1回1日発行） 通巻535号

# ハンドボール

**特集**
**第37回日本リーグ**
**第36回全国高校選抜大会**

［表紙写真］第37回日本リーグプレーオフMVP、女子：石立真悠子・オムロン（左）、男子：久保侑生・大同特殊鋼（右）

公益財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.jp/

# For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」
私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに
世界に類のない、ボールとスポーツエキップメント・メーカーとして
常に完璧な製品づくりを目指しています。

株式会社 モルテン　東京都墨田区横川五丁目5-7

www.molten.co.jp

# 平成25年度（公財）日本ハンドボール協会・役員

| 役職名 | 氏 名 | 職務分掌 |
|---|---|---|
| 名誉会長 | 米倉　功 | |
| 会　長 | 渡邊　佳英 | 国際 |
| 副会長 | 市原　則之 | 上部団体・日本リーグ |
| 副会長 | 多田　博 | 国際・マーケティング |
| 副会長（特任） | 山下　泉 | |
| 副会長（特任） | 川上　整司 | |
| 副会長（特任） | 鶴保　庸介 | |
| 副会長（特任） | 橋本　聖子 | |
| 顧　問 | 大野　金一 | |
| 参　与 | 安藤　純光 | |
| 参　与 | 中澤　重夫 | |
| 参　与 | 佐野　和夫 | |
| 参　与 | 殿水　幸雄 | |
| 参　与 | 竹野　奉昭 | |
| 参　与 | 大西　武三 | |
| 参　与 | 塩川　安賢 | |
| 専務理事 | 川上　憲太 | マーケティング本部長兼任 |
| 常務理事 | 大橋　則一 | 総務本部長 |
| 常務理事 | 角　紘昭 | 普及指導本部長 |
| 常務理事 | 津川　昭 | 強化本部長 |
| 常務理事 | 西窪　勝広 | JHL 委員長代行 |
| 常務理事 | 江成　元伸 | 競技本部長 |
| 理事（常務理事待遇） | 志々場　修二 | 総合企画副室長 |
| 理事（常務理事待遇） | 蒲生　晴明 | 総務副本部長 |
| 理事（常務理事待遇） | 藤森　徹 | 総務副本部長 |
| 理事（常務理事待遇） | 藤井　俊朗 | 競技副本部長・審判長 |
| 理事（常務理事待遇） | 田中　茂 | ジュニアアカデミー |
| 理　事 | 春日井　条治 | 社会人連盟 |
| 理　事 | 松井　幸嗣 | 学生連盟 |
| 理　事 | 船木　浩久 | 高体連 |
| 理　事 | 小島　収治 | 北海道ブロック |
| 理　事 | 高山　重雄 | 東北ブロック |
| 理　事 | 稲生　茂 | 関東ブロック |
| 理　事 | 山川　博行 | 北信越ブロック |
| 理　事 | 杉本　眞一 | 東海ブロック |
| 理　事 | 中村　博幸 | 近畿ブロック |
| 理　事 | 佐藤　公美 | 四国ブロック |
| 理　事 | 佐藤　喜一 | 九州ブロック |

| 役職名 | 氏 名 | 職務分掌 |
|---|---|---|
| 監　事 | 伊藤　宏幸 | |
| 監　事 | 近森　克彦 | |
| 参　事 | 齋藤　仁宏 | 中体連 |
| 参　事 | 川原　繁樹 | 高専体協 |
| 参　事 | 小西　博喜 | 車椅子 |
| 参　事 | 坂本　静男 | アンチドーピング |
| 参　事 | 関　健三 | NTS |
| 参　事 | 中野　利一 | 20万人会 |
| 参　事 | 堀　美和子 | 総務（広報） |
| 参　事 | 村松　誠 | 総務（財務） |
| 参　事 | 近久　紀人 | 総務（機関誌） |
| 参　事 | 笹倉　清則 | 普及（指導） |
| 参　事 | 佐藤　靖 | 普及（学校教育） |
| 参　事 | 大原　康昇 | 普及（ビーチ） |
| 参　事 | 小山　哲央 | 普及（マスターズ） |
| 参　事 | 大村　久 | 普及（普及指導） |
| 参　事 | 山本　繁 | 普及（小学生） |
| 参　事 | 井口　京子 | 普及（女性） |
| 参　事 | 佐久間　克彦 | 強化（医事） |
| 参　事 | 田中　守 | 強化（情報） |
| 参　事 | 後藤　登 | 競技（国際） |
| 参　事 | 越田　義昭 | 審判（指導） |
| 参　事 | 仲田　稔 | 審判（国際） |
| 参　事 | 矢田貝　拓治 | プロジェクト（公益法人移行） |
| 参　事 | 松本　勇 | プロジェクト（公益法人移行） |
| 参　事 | 兼子　真 | 事務局長（総務他） |
| 参　事 | ネメシュ ローランド | 総務（国際） |
| 参　事 | 朝生　和光 | プロジェクト（社会人） |

＊現在、非常勤役員に報酬・退職金等は支給しておらず、今後も支給する予定はありません。
** 網掛け部会長推薦参事については、現在未定のため、平成24年度の役員を標記しています。

# 第37回日本ハンドボールリーグ

## 日本リーグを終えて

日本ハンドボールリーグ機構 GM　家永昌樹

3月9日・10日のプレーオフをもちまして、今期の日本ハンドボールリーグの日程を終了いたしました。

今シーズンは新たに、男子はトヨタ自動車東日本が加わり9チーム、女子は6チームでの戦いで、53会場117試合のレギュラーシーズンを行い、最終日まで男子はプレーオフ出場チーム、女子は順位が決まらない激戦でした。開催地の皆様にはシーズン中運営に大変ご尽力をいただき、集客も対前年比123％になりました。各地での様々な取り組みも多く、独自性が表れております。また、今シーズンは湧永製薬のご協力を始め、トヨタ紡織九州、琉球コラソンがインターネット中継を実施し、日本国内はもとより、世界中で試合を観戦できるようになりました。TV中継も今シーズンは4試合が行われ、その中で3試合は試合開催地域だけでなく、相手チームの放送エリアでも放映されました。このTV中継に関しては開催地の皆様のご尽力のたまものです。

日本リーグとしても来シーズンはインターネット、TV共に試合数を増やしたく開催地、チームと連携を取って行きたく思います。

今シーズン7月に開催地責任者・GM合同研修会を開催し、各開催地の事例を発表いただき、開催地の参考になるように、また集客についてもチームと開催地が協力し合って集客に努めるような取り組みを研修しました。GM会議も開催し、事業計画を各チームGMの皆さんと共有しながら進め、チーム取り組みの事例発表も行い、各チームGMの皆様の研修活動も行っております。

審判も各ブロックから選ばれた方々に日本リーグを担当頂いておりますが、8月に一同に集まり、研修を行い判定の統一や、今シーズンは元プロ野球の審判の方に講演を頂き研修を積んでリーグに臨みました。

レギュラーシーズン全体は年々盛り上がっており開催地、チームが一丸となって取り組んで頂いている成果が徐々に表れておりますが、集客も早く1ケタ増やしていけるように今後も皆様と取り組んでいきたく思います。

日本リーグでは昨年よりジュニアリーグを開催しております。これは各所属チームがジュニアチームの保有を目指し、東西に分けてリーグ戦を行い、プレーオフ決勝の日の午前中に決勝戦を行い、今年は男子が「北國ハニービージュニア」女子が「北陸電力ジュニアブルーロケッツ」がそれぞれ優勝しました。

社会人、学生の活動の場をより広げるためにチャレンジディビジョンも開催し、今年で4回目を迎え、毎年多くのチームに参加いただき、レベルアップにつながっております。今年はHondaが優勝致しました。このチャレンジディビジョンももっと参加チームを増やして全国に拡大し、その中から日本リーグに参戦するチームを育成したいと考えております。

シーズンを締めくくるプレーオフですが、男子が大崎電気、

# プレーオフ

## 大同特殊鋼、オムロン共に 2年連続16回目の優勝！

トヨタ車体、湧永製薬、大同特殊鋼の４チーム、女子がオムロン、北國銀行、広島メイプルレッズの３チームでの争いとなり、男子は、４位の大同特殊鋼がレギュラーシーズン全勝の大崎電気を破り、２年連続 16 回目の優勝を、女子はレギュラーシーズン１位のオムロンが激戦を制し２年連続 16 回目の優勝をそれぞれ収めました。

特に大同特殊鋼はレギュラーシーズン最終日にプレーオフ進出を決め、第 17 回大会から始まったプレーオフで初めてレギュラーシーズン４位からの優勝です。

女子は決勝を戦ったオムロンと広島メイプルレッズは７月の社会人選手権では７ｍスローコンテストまでもつれた末、広島メイプルレッズが、12 月の全日本総合では延長の末オムロンがそれぞれ勝っております。それだけ近年は各チームの実力が拮抗している証拠です。

今シーズンはクウェートより審判を招聘し男子の準決勝、決勝を担当していただき、素晴らしいパフォーマンスを披露していただきました。日本人審判にも大いに参考となったことでしょう。

また、プレーオフでは初めて賞金大会とし、男女それぞれの優勝チームに 100 万円が全日本空輸株式会社様より授与されました。

全試合満員のお客様で埋めていただき、足を運んで頂きました皆様には感謝申し上げます。昨年に引き続き、会場内には、ご来場のお客様の変化に伴い、ベビーカーお預かり所や授乳室を設置しご好評をいただきました。このお客様の変化は嬉しい限りで、ハンドボール未経験者の方が増えてきており、新たなハンドボールファンの拡大になってきているものと思います。

プレーオフ開催に当たり毎年、東京都ハンドボール協会、関東学生ハンドボール連盟の方々にはご協力を賜りこの場をお借りして御礼を申し上げます。

今のプレーオフに満足せずに、選手、ご来場の皆様共に喜んでいただける大会に出来るように取り組んでいくとともに、プレーオフでの運営を各レギュラーシーズンの運営にも反映して行き、日本ハンドボールリーグ全体の運営レベルを上げていきたく考えています。それによって興行としてお金を払って見に来ていただくお客様に満足を頂き、日本リーグを見に行きたいと思っていただくファンを拡大し、会場にお客様の来場が増えれば、メディアも取り上げてくるようになり、ハンドボール全体のバリューが高まっていくものと思っております。

間もなく日本ハンドボールリーグは 40 周年を迎えます。来シーズンは女子に「飛騨高山ブラックブルズ岐阜」が新たに参戦、７チームになりより激しい戦いが繰り広げられることが予想されます。日本リーグの試合がより激しく、より高度にならなければ代表チームの強化につながらないと思います。また、強化だけでなく、激しい、高度な試合がくり広げられることで、その試合を担当する審判のレベルアップにつながります。

試合を興業としての開催、代表チームの強化拠点としての位置付け、ハンドボールのバリューアップ、底辺拡大を続けながら益々進化し、ハンドボール界を牽引できるように努めますので引き続き皆様のご支援、ご指導、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

# ［男子優勝］ 大同特殊鋼

### 大同特殊鋼監督・末松　誠

2013年3月9、10日に行われた37回日本リーグプレーオフでは、2年連続16回目の優勝を果たす事が出来ました。レギュラーシーズンでは思うような結果を出す事が出来ず、苦しい状況が続き最終戦で4位が確定となり、やっとの想いで掴んだプレーオフの出場権でした。

昨年度は3位からの出場であり、今年度は4位からの挑戦となりましたが、チームとしての取り組みは今までやってきた自分たちの努力を信じ、プレーオフでそれを発揮する事だけを考えて挑みました。

主将である武田を中心に中堅と若手が自分の持ち味を全力で発揮し、最後はチームワークを武器に戦い抜き、素晴らしい結果を残す事が出来ました。

この結果を残せたのも、日頃から多大なご協力を頂いている会社の皆様、どんな結果を出してもいつも「頑張れ」と背中を押してくれる同僚の方、また常にそばで支えてくれる家族、友人の皆様のご協力があったからこそと感じております。

来年度は今年度の反省を生かし、チャレンジ精神を念頭に更なるレベルアップを目標に邁進いたしますので、これからも変わらぬご声援をよろしくお願い致します。

### 大同特殊鋼・久保侑生（最高殊勲選手）

3月9日・3月10日に行われました、第37回日本ハンドボールリーグ・プレーオフで2年連続16回目の優勝を果たすことが出来ました。

優勝できたことは、いつもチームを支えてくださる関係者の方をはじめ、多くの方々からのご支援・ご声援があったからこそ成し得た成果です。本当にありがとうございました。

また、個人としましても最高殊勲選手に選出していただきありがとうございました。

1つの目標としていた賞なので、私のハンドボール人生の中でも、とても思い出となる2日間であり、今後の自信へとつながりました。

今回プレーオフで初めて最高殊勲選手賞を獲得しましたが、日頃指導していただいているスタッフをはじめ、多くの方からアドバイスをいただいたお陰だと思っています。

そして何より、苦しい場面でお互いに声を掛け合い乗り越え、数多くのシュートシーンでシュートコースを制限してくれたチームメイト全員に感謝します。

昨年は新人賞、今年は最高殊勲選手賞と二年連続で賞を戴きましたが、この結果に満足することなく、4月に行われる東アジアクラブ選手権、昨年度獲得できなかったタイトルの奪取、プレーオフの連覇、そして日本チームの悲願でもあります、オリンピックへの出場に向け、これからも日々のトレーニングに全力で取り組み、努力を重ね、今回戴いた賞に恥じないプレーを心掛けたいと思います。

最後に、今回の優勝にあたり、チーム関係者・大会運営関係者・会場に足を運んでいただいた多くのファン・サポーターの皆様、本当にありがとうございました。

これからも、観ている方々に“感動”を与えられるチーム・選手を目指して頑張りますので、今後ともご声援を宜しくお願いします。

# ［女子優勝］オムロン

## オムロンヘッドコーチ・黄　慶泳

先ずは第37回日本リーグプレーオフで2年連続16度目の優勝ができ心から喜び、このような歴史の中にチームの一員として活動できた事に幸せを感じております。

優勝できたのは何よりも会社の全面的なサポートは勿論、試合会場まで足を運んで熱い声援を送って下さった方々、色んなところから心を寄せてくださったオムロンを愛する方々のお陰だと認識しております。改めて心からお礼申し上げます。

シーズンを通して振り返ってみると日本リーグ中盤までは安定感もあって白星を重ねながら試合を運びましたが、年明けからの終盤の戦いは、内容も含めて怪我人も続出する中で不安定な試合が続いたと思います。そのような状況からプレーオフを準備する中で、私も含めてチームが迷いと不安を感じたのも事実でありました。その時、西窪GM代行からチームの課題に対する助言も含めて明確な方向性を示して頂いたお陰で、自分自身の迷いがなくなりましたし、戦い方に対する確信ができたと思います。またチームメートの団結力を一層高めていくために日々努力してくれた吉田バイスキャプテンの献身的な努力があったから決勝に不安もなく挑めたと考えます。

決勝では経験豊富なベテラン組みが前半からビハインドの厳しい展開の中でも、ゲームコントロールを見事にしてくれたこと、プレーオフ初経験ながらも自分の役割をしっかりと果たしてくれた若手選手の活躍も含めて選手全員の頑張りにも拍手を送りたいと思います。

最後になりますが、選手が素晴らしい舞台で戦える環境を整えてくださいました日本協会の皆様方も含めて、関係者の皆様方には改めて心からお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

これからも進化し続けるオムロンを目指して日々取り組んでまいりますので、引き続きご声援頂きます様お願い申し上げまして、優勝の報告といたします。

ありがとうございました。

## オムロン・石立真悠子（最高殊勲選手）

まず初めに、各地で開催されました日本リーグの運営に携わっていただいた方々、そしてプレーオフという舞台の運営にご尽力いただいた多くの関係者の皆様に、お礼を申し上げます。第37回日本ハンドボールリーグで2連覇を果たすことができ、心から嬉しく感じると共に安堵いたしております。

また、1年間共に闘ってくださったファンの方々、多大なご支援、ご声援を頂いたオムロン社員の方々、そして家族に感謝の気持ちで一杯です。

リーグレギュラーシーズンの戦いは良いスタートダッシュができました。年が明けてからの試合では故障者も続出し課題の残る試合内容ではありましたが、1位通過することが出来ました。

しかし、プレーオフに向けて選手個々が不安を感じていたのも事実です。プレーオフ本番ではチームスローガンである「より強く　より美しく」の言葉を胸に、オムロンらしく60分間メンタルでもフィジカルでも粘り強いハンドボールを実践する事をチーム全員で誓い合い試合に挑みました。前半は4点ビハインドと苦しい試合内容でしたが、劣勢の状況でもベンチにいる仲間、オムロン応援席にいる仲間が一つとなって仲間を信じ「チーム　オムロン」として戦えた事が、優勝できた1番の要因だと実感しています。

私はプレーオフ大会で最高殊勲賞という素晴らしい賞を頂くことができました。しかし、この賞は私1人で獲得できたものではありません。オムロン伝統の強さを見せ引っ張ってくださった先輩方、下から大きな力で支えてくれる後輩達、全体を俯瞰する目でチームにアドバイスいただいた西窪GM代行、黄ヘッドコーチのお陰だと思っております。これからも1人のハンドボールプレーヤーとして、1人の人間としてこの賞に恥じないよう更に向上していけるよう精進してまいりたいと思います。

今後も皆様に愛され、勝ち続けるオムロンチームとなれるよう一丸となって頑張ってまいります。

# 戦　評

## 男　子

■準決勝

### 大同特殊鋼　27（16 － 11, 11 － 13）24　大崎電気

大同特殊鋼 22 番高の強烈なロングシュートで試合開始。すかさず大崎電気も 3 番小澤がサイドシュートを決め、24 番信太、6 番豊田が連続得点を決める。若手とベテランが融合した超攻撃型の布陣。対する大同もフローター陣が高い打点から大崎ディフェンスを切り崩す。前半 10 分 6 対 4 と互角の戦い。目まぐるしい攻防の切り替え。大同は得意の速攻で得点を重ねるが、大崎もセットオフェンスで応酬。前半 18 分から大崎のミスを確実に得点につなげ、大同が 4 点差をつける。大崎も選手交代で巻き返しを図るが、大同 22 番高の個人技が止められない。28 分大崎 15 番夏山の退場も響き、前半 11 対 16 の大同の 5 点リードで前半を折り返す。

後半開始 1 分、大崎 7 番宮崎のミドルシュートが決まる。後半 10 分で 15 対 18 と大崎が詰めよったところで大同がタイムアウト。大崎は大同 22 番高にマンツーマンを仕掛けるが、得点につながらず。その後互いに得点を重ね後半 22 分 19 対 22、大崎は高めのディフェンスから速攻につなげ、25 分には 21 対 23 と 2 点差まで詰めよる。しかし、大同も素早い攻撃で 25 対 21 の 4 点差にリードを広げる。大崎も最後まであきらめず、ラスト 1 分 24 対 26 の 2 点差まで詰めよるものの、残り時間 10 秒で、大同ボールとなりそのままタイムアップ。リーグ 4 位の大同がリーグ 1 位の大崎を倒す大金星をあげた。

### トヨタ車体　21（9 － 9, 12 － 7）16　湧永製薬

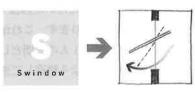
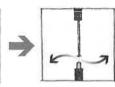
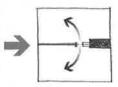
全日本総合決勝と同じ組み合わせ。湧永製薬のスローオフで試合開始。湧永は立ち上がりのディフェンスが良く、13 番新が 2 連続得点。トヨタ車体はサイドまでボールを回し大きく展開。湧永はポストを基軸に 18 番中浦を中心としたフローター陣がポジションチェンジをしながら攻める。湧永 5 番成田がトヨタ車体の攻撃をしっかりと守り、前半 10 分 4 対 2 の湧永リードで進む。トヨタ車体は 3 番石戸の豪快なロングシュート、20 番渡部のサイドシュートで前半 20 分 6 対 7 の 1 点差に詰めよる。その後一進一退の攻防が続き、前半 29 分でトヨタ車体が同点に追いつき 9 対 9 のロースコアで前半終了。

後半 3 分に湧永が退場者を出し、その間トヨタ車体に 2 点差をつけられる展開。後半 10 分、湧永ディフェンスは約 10 分間無得点に抑え、後半 19 分に 14 対 14 の同点に追いつく。ラスト 5 分、トヨタ車体 3 番石戸のロングシュートで 18 対 16 の 2 点差に。その後も果敢にゴールを狙い続けたトヨタ車体が 21 対 16 の 5 点差をつけて勝利。

■決勝

### 大同特殊鋼　27（11 － 11, 16 － 8）19　トヨタ車体

プレーオフ男子決勝にふさわしい満員の会場。愛知県勢同士の戦い。大同は 14 番千々波をトップに用いる 5-1 ディフェンス。トヨタ車体は前後を足で詰める 6-0 ディフェンス。最初に流れを掴んだのは大同。速攻、サイドシュート、さらに 22 番高の個人技で得点を重ねる。昨日リーグ 1 位の大崎を倒した勢いそのままに足を使って積極的に攻め、前半 7 分で 4 対 1。しかし、トヨタ車体もディフェンスからの速攻、サイドシュートで詰めより、前半 10 分で 5-4 と互角の勝負となる。両チーム共にコートをフルに使い、目まぐるしいポジションチェンジ。大同の 5-1 ディフェンスが機能し、トヨタ車体が攻めあぐねる間に大同がセットオフェンスでしっかり得点し、前半 18 分で 9 対 7 と 2 点差をあける。大同は 2 番棚原の打点の高い豪快なシュートで得点を重ねるが、対するトヨタ車体もフェイントからのシュートで応酬。速攻からのシュートも決まり、前半 26 分で 10 対 10 と追いつく。その後一進一退の攻防が続くが、両者譲らず同点のまま前半終了。

後半も両チーム共にディフェンスが機能して全く足が止まらない。トヨタ車体 3 番石戸のロングシュートが連続で決まるが、大同 22 番高もロングシュートで取り返す。後半 8 分で 13 対 14 とトヨタ車体が 1 点リードのところで退場者を出してしまう。大同はこのチャンスを確実に得点に結びつけ後半 10 分 16 対 14 と逆転、差を広げる。トヨタ車体は大同ディフェンスのプレッシャーと GK12 番久保のファインセーブに阻まれ、後半 25 分に一挙 24 対 17 と点差を広げ

## 戦　評

られる。その後も最後まで果敢にゴールを狙う大同は27対19の8点差で勝利し、優勝を果たした。決勝にふさわしいスピーディーかつダイナミックな展開、最後は大同のチームワークの勝利となった。

## 女　子

■準決勝

### 広島メイプルレッズ 23（10－9, 13－6）15 北國銀行

両チーム応援団の大声援に包まれる中、プレーオフ第1戦が開幕。燃えるような赤いユニフォームのメイプルレッズに対して、鮮やかなグリーンが映える北國銀行。開始早々から両チームGKの堅守が光る。北國は個人技での切り崩し、メイプルは巧みなパスワークで攻める。GKのファインセーブにも助けられ、メイプルが先に試合の主導権を握り、前半7分で5対1。北國はディフェンスラインを上げ、カットからの速攻で得点を重ね、同点に追いつく。メイプルも高いディフェンスラインと豊富な運動量でボールを奪い、速攻につなげる。しかしGKの堅守もあり、両チーム攻め手を欠き、20分過ぎから得点が止まりだした。前半残り30秒、メイプル2番増田のロングシュートが決まり、10対9のメイプル1点リードで折り返す。

後半、メイプルはディフェンスからの速攻で得点を重ねるが、後半10分で16対12と点差が開き出したところでメイプルは退場者を出してしまう。しかし北國はそのチャンスを活かせず、逆にメイプルに得点をとられてしまう。メイプルGK1番堂面は幾度となくノーマークシュートを止める活躍。コートを広く使い、緩急をつけたパスワークで得点を重ねていった広島メイプルレッズが勝利した。

■決勝

### オムロン 22（8－12, 14－9）21 広島メイプルレッズ

会場を埋めつくす両チームの応援団の大声援に試合前から否が応にも盛り上るボルテージ。開始2分ポスト8番塩見の体を張ったシュートが7mスローの判定。これをきっちり7番宋が決めてこの試合の初得点。最初に流れを掴んだのはメイプル。昨日リーグ2位北國銀行を倒した勢いと運動量は今日もそのまま。素早い速攻とパスワークで切り崩す。対するオムロンは17番東濱、7番藤井を中心としたセットプレーと高さのあるディフェンスで冷静な試合運び。オムロンは8分すぎに退場者を出すが、ディフェンスでしのぎ、10分を過ぎて3対4と均衡状態。オムロンは7番藤井、17番東濱の個人技で得点を狙うがゴールを割れず。メイプルは勢いに乗ったままの16分で4対7と3点差をつける。ここでオムロンはタイムアウトを取り落ち着きを取り戻し、ディフェンスを固め、メイプルのパッシブプレーによるターンオーバーを狙う。一進一退の攻防が続くが8対12とメイプル優位で前半終了。

後半オムロンのディフェンスが機能しはじめメイプルが攻めあぐねる。オムロンが速攻で3連取。セットオフェンスでも打点の高いシュートが決まり、後半10分で15対13と2点差をつける。このままオムロンが流れを掴むかと思われたが、メイプルも負けじと連取し、後半15分15対17の2点差とする。オムロンも速攻8番石立のカットインで後半16分に同点に追いつく。ここからは両チーム全力でぶつかる一進一退の攻防。エース17番東濱の強いシュートで19分19対18と再逆転。その17番東濱が20分に足でボールをカットした為に退場するが、このチャンスにメイプルは逆転することができず、メイプル同点のチャンスにオムロンGK1番藤間がファインセーブを連発。21対20と1点差のままラスト3分を迎える。両チーム1点ずつ得点し、22対21でラスト1分間の攻防。メイプルが残り30秒でボールを奪い速攻につなげようとするがファールとなる。最後の望みをかけたノータイムスローはゴールを割れず、オムロンが激闘を制した。

### 第2回JHLジュニアリーグ

［男子決勝］
北國ハニービージュニア　19（7－7, 12－10）17　琉球コラソンジュニア

［女子決勝］
北陸電力ジュニアブルーロケッツ 14（8－7, 6－6）13　琉球コラソンジュニア

# PHOTO SNAP

女子決勝前、国旗掲揚

決勝審判は、第37回日本リーグ最優秀レフェリー賞を受賞した：池渕智一・檜崎潔ペア

殊勲選手賞の宋海林（広島メイプルレッズ）

最高殊勲選手賞の石立真悠子（オムロン）

最優秀監督賞の黄慶泳監督

優勝決定の瞬間のオムロン応援席

選手から胴上げされる黄監督

喜びを表すオムロンのパフォーマンス

ハーフタイム（15分）を利用して、オリンピック出場選手9名とJHLジュニアリーグ決勝戦出場選手による2020年オリンピック・パラリンピック東京招致のアピール

# PHOTO SNAP

男子決勝前、国旗掲揚

男子決勝審判はクウェートから招聘の、
Al Suwailam Jasem と Al Mutawa Ahmad 国際審判ペア

最高殊勲選手賞の久保侑生（大同特殊鋼）

優勝決定の瞬間の大同特殊鋼応援席

殊勲選手賞の渡部仁（トヨタ車体）

選手から胴上げされる末松監督

日本リーグ初の賞金大会　賞金を掲げる両チーム選手達

最優秀監督賞の末松誠監督

第2回ジュニアリーグ　女子優勝
北陸電力ジュニアブルーロケッツ

第2回ジュニアリーグ　男子優勝　北國銀行ハニービージュニア

# 順位表 レギュラーシーズン

## 男 子

| 順位 | | 大崎 | 車体 | 湧永 | 大同 | 琉球 | 紡織 | 合成 | 北電 | 東日本 | 数 | 勝 | 分 | 敗 | 得点 | 失点 | 差 | 点 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1. | 大崎電気 | | 39○31 30○28 | 30○23 30○27 | 29○26 29○23 | 34○19 31○26 | 34○29 37○35 | 38○30 35○17 | 38○24 33○26 | 41○21 39○28 | 16 | 16 | 0 | 0 | 547 | 413 | 134 | 32 |
| 2. | トヨタ車体 | 31●39 28●30 | | 29○26 25○23 | 36○24 30○20 | 29○25 27○26 | 33○27 40○26 | 37○30 30○27 | 37○27 32○18 | 45○19 36○22 | 16 | 14 | 0 | 2 | 525 | 409 | 116 | 28 |
| 3. | 湧永製薬 | 23●30 27●30 | 26●29 23●25 | | 32○27 29○27 | 27○25 24●27 | 33○28 23●31 | 30○20 17△17 | 26○22 30○14 | 43○26 36○21 | 16 | 9 | 1 | 6 | 449 | 399 | 50 | 19 |
| 4. | 大同特殊鋼 | 26●29 23●29 | 24●36 20●30 | 27●32 27●29 | | 19●20 25○22 | 21△21 29○23 | 29○24 24○21 | 28○21 35○21 | 41○22 40○22 | 16 | 8 | 1 | 7 | 438 | 402 | 36 | 17 |
| 5. | 琉球コラソン | 19●34 26●31 | 25●29 26●27 | 25●27 27○24 | 20○19 22●25 | | 31○29 30○29 | 20△20 27○21 | 25●33 31○25 | 37○18 32○21 | 16 | 8 | 1 | 7 | 423 | 412 | 11 | 17 |
| 6. | トヨタ紡織九州 | 29●34 35●37 | 27●33 26●40 | 28●33 31○23 | 21△21 23●29 | 29●31 29●30 | | 27△27 27○21 | 32○28 37○31 | 38○21 42○25 | 16 | 6 | 2 | 8 | 481 | 464 | 17 | 14 |
| 7. | 豊田合成 | 30●38 17●35 | 30●37 27●30 | 20●30 17△17 | 24●29 21●24 | 20△20 21●27 | 27△27 21●27 | | 30○24 24○21 | 26○24 31○27 | 16 | 4 | 3 | 9 | 386 | 437 | -51 | 11 |
| 8. | 北陸電力 | 24●38 26●33 | 27●37 18●32 | 22●26 14●30 | 21●28 21●35 | 33○25 25●31 | 28●32 31●37 | 24●30 21●24 | | 30●32 27○25 | 16 | 2 | 0 | 14 | 392 | 495 | -103 | 4 |
| 9. | トヨタ自動車東日本 | 21●41 28●39 | 19●45 22●36 | 26●43 21●36 | 22●41 22●40 | 18●37 21●32 | 21●38 25●42 | 24●26 27●31 | 32○30 25●27 | | 16 | 1 | 0 | 15 | 374 | 584 | -210 | 2 |

※勝敗（○、△、●）の上が得点、下が失点を表す。

## 女 子

| 順位 | | オムロン | 北國銀行 | メイプル | ソニー | 三重 | HC 名古屋 | 数 | 勝 | 分 | 敗 | 得点 | 失点 | 差 | 点 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1. | オムロン | | 22○18 22○16 22△22 | 30○18 26△26 25●26 | 19○15 24○21 24○20 | 33○16 32○12 32○12 | 33○16 32○14 30○10 | 15 | 12 | 2 | 1 | 406 | 262 | 144 | 26 |
| 2. | 北國銀行 | 18●22 16●22 22△22 | | 32○24 26●28 27○22 | 26○25 23○17 27○16 | 36○7 33○16 33○17 | 33○9 29○11 28○16 | 15 | 11 | 1 | 3 | 409 | 274 | 135 | 23 |
| 3. | 広島メイプルレッズ | 18●30 26△26 26○25 | 24●32 28○26 22●27 | | 30○26 27○22 27○19 | 38○17 32○17 37○18 | 29○14 27○18 34○14 | 15 | 11 | 1 | 3 | 425 | 331 | 94 | 23 |
| 4. | ソニーセミコンダクタ | 15●19 21●24 20●24 | 25●26 17●23 16●27 | 26●30 22●27 19●27 | | 25○16 23○20 31○13 | 29○17 24○10 30○9 | 15 | 6 | 0 | 9 | 343 | 312 | 31 | 12 |
| 5. | 三重バイオレットアイリス | 16●33 12●32 12●32 | 7●36 16●33 17●33 | 17●38 17●32 18●37 | 16●25 20●23 13●31 | | 23○16 20○14 21○20 | 15 | 3 | 0 | 12 | 245 | 435 | -190 | 6 |
| 6. | HC名古屋 | 16●33 14●32 10●30 | 9●33 11●29 16●28 | 14●29 18●27 14●34 | 17●29 10●24 9●30 | 16●23 14●20 20●21 | | 15 | 0 | 0 | 15 | 208 | 422 | -214 | 0 |

※勝敗（○、△、●）の上が得点、下が失点を表す。

# 個人表彰

## 男子

| | | | |
|---|---|---|---|
| 最高殊勲選手賞 | 久保侑生（大同特殊鋼） | 初 | |
| 最優秀監督賞 | 末松　誠（大同特殊鋼） | 初 | |
| 殊勲選手賞 | 渡部　仁（トヨタ車体） | 初 | |
| 最優秀選手賞 | 浦和克行（大崎電気） | 初 | |
| ベストセブン賞 | GK　浦和克行（大崎電気） | 2回目 | |
| | CP　東長濱秀希（大崎電気） | 3回目 | |
| | CP　東長濱秀作（琉球コラソン） | 2回目 | |
| | CP　木切倉真一（トヨタ車体） | 初 | |
| | CP　富田恭介（トヨタ車体） | 4回目 | |
| | CP　豊田賢治（大崎電気） | 5回目 | |
| | CP　村上秀行（トヨタ紡織九州） | 5回目 | |
| ベストディフェンダー賞 | 富田恭介（トヨタ車体） | 4回目 | |
| 最優秀新人賞 | 渡部　仁（トヨタ車体） | | |
| 得点王 | 東長濱秀作（琉球コラソン） | 105 点 | 初 |
| フィールド得点賞 | 上野承太（トヨタ自動車東日本） | 92 点 | 初 |
| シュート率賞 | 富田恭介（トヨタ車体） | 0.717 | 2回目 |
| 7m スロー得点賞 | 東長濱秀希（大崎電気） | 25 点 | 3回目 |
| シュート阻止率賞 | 甲斐昭人（トヨタ車体） | 0.439（155/353） | 初 |
| 7m スロー阻止率賞 | 志水孝行（湧永製薬） | 0.429（9/21） | 初 |
| フェアプレー賞 | 湧永製薬　86 点／16 試合（5.38 点／試合） | | |

## 女子

| | | | |
|---|---|---|---|
| 最高殊勲選手賞 | 石立真悠子（オムロン） | 初 | |
| 最優秀監督賞 | 黄　慶泳（オムロン） | 6回目 | |
| 殊勲選手賞 | 宋　海林（広島メイプルレッズ） | 初 | |
| 最優秀選手賞 | 藤井紫緒（オムロン） | 初 | |
| ベストセブン賞 | GK　藤間かおり（オムロン） | 初 | |
| | CP　藤井紫緒（オムロン） | 4回目 | |
| | CP　宋　海林（広島メイプルレッズ） | 初 | |
| | CP　高山智恵（広島メイプルレッズ） | 2回目 | |
| | CP　上町史織（北國銀行） | 6回目 | |
| | CP　新城明奈（広島メイプルレッズ） | 2回目 | |
| | CP　八十島智美（北國銀行） | 初 | |
| ベストディフェンダー賞 | 小野澤香理（北國銀行） | 4回目 | |
| 最優秀新人賞 | 田邉夕貴（北國銀行） | | |
| 得点王 | 宋　海林（広島メイプルレッズ） | 111 点 | 初 |
| フィールド得点賞 | 高山智恵（広島メイプルレッズ） | 83 点 | 初 |
| シュート率賞 | 横嶋かおる（北國銀行） | 0.847 | 3回目 |
| 7m スロー得点賞 | 上町史織（北國銀行） | 38 点 | 3回目 |
| シュート阻止率賞 | 藤間かおり（オムロン） | 0.491（207/422） | 初 |
| 7m スロー阻止率賞 | 堂薗妙子（広島メイプルレッズ） | 0.391（9/23） | 4回目 |
| | 南　裕子（ソニーセミコンダクタ） | 0.391（9/23） | 初 |
| フェアプレー賞 | 北國銀行　80 点／15 試合（5.33 点／試合） | | |

# 平成24年度 第36回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

写真提供：写ネットいわて

**最終順位**

【男子】
優　勝：岩手県立不来方高等学校（岩手県）
準優勝：北陸高等学校（福井県）
３　位：桃山学院高等学校（大阪府）
　　　　香川県立香川中央高等学校（香川県）

【女子】
優　勝：佼成学園女子高等学校（東京都）
準優勝：高岡向陵高等学校（富山県）
３　位：星城高等学校（愛知県）
　　　　名古屋経済大学市邨高等学校（愛知県）

**個人表彰**

| | 【男子】 | 【女子】 |
|---|---|---|
| ■最優秀選手 | 安倍竜之介（不来方） | 河原畑佑子（佼成学園） |
| ■優秀選手 | 友兼尚也（北陸） | 八木晴菜（佼成学園） |
| | 昆　駿（不来方） | 藤田明日香（四天王寺） |
| | 徳田新之助（岩国工業） | 北原佑美（高岡向陵） |
| | 西山尚希（香川中央） | 藤原真由子（名経大市邨） |
| | 中野　尚（北陸） | 三浦みな美（高岡向陵） |
| | 石田　亨（桃山学院） | 西浦可歩（星城） |
| | 村田宗一郎（高山西） | 武藤純菜（名経大市邨） |
| ■有望選手 | 康本侃司（藤代紫水） | 奥田結菜（高岡向陵） |

## 第36回全国高等学校ハンドボール選抜大会を振り返って

静岡県ハンドボール協会常務理事（大会実行委員会事務局）**田中俊徳**

３月30日午前10時、この試合の審判を担当する静岡の油上・中村ペアが女子決勝のスローオフの笛を聞いた瞬間、感慨深い思いがこみ上げました。ここ小笠山総合運動公園エコパアリーナで、ハンドボール競技として初のセンターコート、静岡での初の選抜大会決勝の舞台。

平成24年度から３年間、全国高校選抜大会を東海ブロックで行う事になり、そのうち25年度、26年度を愛知県、24年度を施設面のメリットから静岡で開催という方向で話が進む中、静岡のハンドボール界の発展のためにやりましょうと、当時の県協会理事長の久保田氏（現副会長）から、ゴーサインが出ました。静岡県西部地区の高体連委員長だった私に、現県協会理事長石川氏から大会事務局として大会運営を依頼され、思わず「はい」と言ったことを思い出します。あの時から、約４年半、ついに男女決勝の日を迎えたのです。

23年度からは全国高体連専門部に選抜担当として、常任委員に入れていただき、花巻の選抜大会・インターハイ、新潟のインターハイの大会運営を勉強させていただきました。

静岡選抜大会開催の24年度は大会開催前の準備段階から、協賛会社様をはじめ、日本協会の皆様、全国高体連の皆様、全国の審判の皆様、東海地区の副審判長、マッチバイザーの皆様、県協会、県高体連の関係の皆様、会場である小笠山総合運動公園エコパアリーナ、浜松アリーナ、アナウンサーの宇野氏、斎藤氏、報道関係の方、地元からの出店・バスの手配・プログラム作成・看板の作成、それぞれ依頼した地元の業者様、大会運営を担っていただいた県内のハンドボール関係者の方々に多くの協力と、励ましのお言葉をいただきました。

３月24日、開会式に先立ち、静岡県立袋井商業高等学校吹奏楽部による「マーチング」が披露されました。北海道地区代表校を筆頭にチーム紹介が行われ、全国高体連専門部船木委員長による開会宣言の後、優勝杯・準優勝杯・優勝旗・アシックス杯の返還並びにレプリカ授与、日本協会市原副会長の挨拶、日本協会橋本特任副会長の挨拶、静岡県高体連石川会長の祝辞、袋井市小林教育長の歓迎の言葉が述べられました。その後、開催地男女代表の清水商業高校の男子山田主将と女子望月主将による選手宣誓が行われ、平成21年度から東北大震災によって中止となった平成22年度を含む３年間、選抜大会を開催していただいた岩手県への先催県表彰、閉会宣言の後、今大会に出場する第５回男子ユースアジア選手権・第４回女子ユース世界選手権の選手の紹介が行われました。

今大会は、男子５校、女子 11 校が初出場と、常連校の出場が常であるハンドボール競技としては希なフレッシュな大会となりました。

競技初日（25 日）、エコパアリーナ４コートで熱戦の火蓋が切られ、１回戦男女８試合ずつが行われました。２日目（26 日）、２会場６コートで２回戦男女 16 試合ずつ、３日目（27 日）、エコパアリーナ４コートで男女８試合ずつが行われ、今年度のインターハイ覇者である男子岩国工業高校が３回戦で、女子高松商業高校が緒戦の２回戦で、それぞれ敗れ、実力が拮抗した大会を象徴する出来事でした。

一方、ここ数年、選抜大会には何度か出場はするものの、なかなか初戦突破が出来なかった静岡県の代表でしたが、今大会開催地代表として出場した清水商業高校女子が３回戦まで進出し、敗れた３回戦も１点差の惜敗ということで、地元開催を大いに盛り上げました。この４月、統合による校名変更のため、「清水商業高校」の校名で出場するのは最後となり、華を添える形となりました。

４日目（28 日）、エコパアリーナ２コートで男女準々決勝が行われました。試合後、準決勝、決勝の舞台であるセンターコートを再設営しました。この会場でハンドボール競技としてセンターコートを使用するのは、初めてのことで、いよいよ選抜大会のフィナーレが近づいてきたと、胸が高鳴る思いでした。

５日目（29 日）、準決勝は男子が不来方－桃山学院、北陸－香川中央、女子が佼成学園女子－星城、高岡向陵－名古屋経済大市邨。どの試合もお互いの力量を存分に発揮し合った好ゲームが展開されました。

最終日（30 日）、女子決勝は、静岡の油上・中村ペアが審判を担当することになりました。決勝戦は、男女共に連戦の疲れを感じさせない白熱した好ゲームでした。

女子決勝は、佼成学園女子－高岡向陵、勝てばともに初優勝となる一戦でした。第２延長までもつれ込みましたが、第２延長前半に１点差をつけ、後半にも加点した佼成学園女子がそのまま逃げ切り、大接戦にピリオドを打ちました。

男子決勝は、奇しくも昨年と同カード、不来方－北陸、となりました。スピードの北陸高校に対し、高さとパワーの不来方が一進一退の攻防を展開し、後半の中盤でリードした不来方が１点差で逃げ切り、昨年の雪辱を果たし、初優勝を飾りました。決勝に残った男女４チームとも存分にハンドボールの魅力と醍醐味を披露してくれました。会場の誰もが、選手の一つ一つのプレーに見入るような「球史に残る決勝戦」でした。ここに出場チームの健闘を称え、これまで精進してきた選手と指導していただきました監督スタッフに心からの感謝と敬意を表しますと共に、インターハイ、国体に向けて志を高く掲げて更なる向上を目指していただきますよう祈念します。

以下、競技運営とは別に展開した内容です。

①トレーナー・サポート：２会場に全日程、トレーナーを配置し、選手・審判のコンディショニングに活躍していただきました。
②アンチ・ドーピング・アウトリーチ：24-27 日の４日間、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構（JADA）の啓蒙活動を実施しました。
③ 27 日競技終了後、日本リーグ、豊田合成ハンドボール部選手による高校生補助役員対象講習会を実施しました。長期間、準備運営に携わってくれる地元高校生にとって、素敵なプレゼントとなりました。

日本協会、全国高体連専門部、マッチバイザー、審判員ほか競技役員（静岡県協会・専門部・関係委員）が一体となって、大会をやり遂げることができました。静岡県実行委員会としては、我々教員が運営の中心であり、通常の公務と平行して準備を行いました。また、年度末の大会であり、どうしても公務優先とせざるを得ない中での大会運営は大変でした。それでも、大会を無事終えることができたのは、関係者の皆様のご尽力のおかげです。

さらに、チーム関係者の皆様には、宿泊地が広域に渡り、ビジネスホテルに宿泊いただいたチームも多く、果たしてベストコンディションで試合に臨めたかどうか、心配でした。

しかし、出場チームが見せてくれた渾身のプレーは、この静岡の地で確かな足跡となりました。このことが、ハンドボールファンの拡がり、ハンドボール競技の価値向上、オリンピック出場に臨む日本代表チームへの追い風となってくれたら幸いです。

結びに、この静岡での選抜大会開催に関わって、ご支援ご協力を頂きました関係各位に深甚なる敬意と感謝を申し上げますと共に、2013 北部九州総体、並びに、第 37 回選抜愛知大会が成功されますことを心よりご祈念申し上げて、総評とします。ありがとうございました。

# 男子優勝　岩手県立不来方高等学校（岩手県）

## 不来方高校ハンドボール部　内記　徹

**★初優勝に感謝**

決勝戦、30 対 29 になってからの 3 秒間のカウントダウンは、厚いのか硬いのかわからなかった全国制覇の壁が、一気に粉々に崩れ、明るい光が注いだ瞬間でした。

大会２週間前、地元富士大学の胸をかり練習ゲームを重ねましたが、なかなか調子が上がらず焦りと苛立ちでいっぱいでした。また、レギュラー選手の半月板負傷や利き肘骨折の選手も出てチーム状態は最悪でした。そのチームが大会直前に大崎電気の体育館をお借りし、浦和学院高校との調整合宿で、高校生としてのチームワークの大切さと堅守速攻の基本を改めて学ばせていただき、調子を上げて本大会に臨むことができました。

大会は、新チームとして初の全国大会でもあり高い緊張感でスタートしました。二回戦の富岡高校戦と三回戦の大分雄城台高校戦とも前半のリードを必死で守り抜く展開で勝利しました。準々決勝の横浜創学館高校戦は、相手の思い切りの良い攻守に翻弄され、あっという間に大量リードを奪われました。弱気になった選手を鼓舞し、今までの培ってきたことを再確認し、後半の相手選手の退場をきっかけに辛うじて逆転勝ちすることができました。この試合で、自分たちの甘さを再認識し「創学館に学べ！」を合い言葉にチームとして生まれ変わることができました。準決勝はスピード溢れる桃山学院高校と対戦し、点数の取り合いのゲームになりました。走れる大型選手を目指した日常のトレーニングが実を結び、最後は走り勝つことができました。ここまで、富岡高校の栃谷則史監督・大分雄城台高校の平井徳尚監督・横浜創学館高校の小林聖監督・桃山学院高校の井上博人監督と同世代の指導者と競り勝つことができ、運命的なものを感じました。また、決勝戦は昨年同様の北陸高校との対戦となりました。地元で開催された北東北インターハイや全国選抜大会を契機に、一気に強化を推し進め頂点を狙った昨年の決勝戦を嫌でも思い出す相手でした。しかし、選手には昨年の悔しさを胸に秘め、勝ったらどうなる、負けたらどうしようと考えずにとにかく試合に集中することと、最後の１点で勝負することを約束しました。試合は北陸高校の巧みなゲームメイクに終始苦しめられましたが、1 点差で勝利することができました。

平成元年の創部から 24 年、田舎の公立高校で日本一を達成しました。すべてゼロから立ち上げた阿部伸前監督の思いや東北に優勝旗をと常に励まし続けてくれた東北協会の高山重雄理事長など多くの関係者に支えられ、ここまで成長することができました。県協会、県高体連、父母会、OB の皆様、そして練習試合等で何度も鍛えて頂いた、実業団、大学、高校の関係者の皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

# 女子優勝　佼成学園女子高等学校（東京都）

**佼成学園女子高校ハンドボール部監督　石川浩和**

感謝——決勝戦を戦い終えて２日経った今、心を満たしている感情を言葉にすれば、この感謝という一語です。

私たちの気持ちが試合にのみ集中できたのも、本大会を運営してくださった静岡県協会・静岡県高体連専門部の方々の（いちいち例は挙げませんが）細やかな心遣いのお蔭でした。それは同時に日本協会・全国高体連専門部の方々の経験豊かな大局的なご指示によるものと感じ入っております。

また、身内ともいうべき事柄なので、こういう誌面で申すのは憚られますが、都協会・都高体連の方々（こう書きながら、お一人お一人の喜んでくださるだろうお顔が浮かんでまいります）、部員たちを育て私どもに委ねてくださった東京・神奈川・大阪の中学校とクラブチームの指導者の先生方に心からの感謝を申し上げたく思います。

さらには、大学・実業団の指導者の方々には、練習試合・合宿などを通じて、選手のみならず、未熟な私やコーチの安藤にまで、様々に的確なご指導を賜ったことも感謝してあまりあります。

学校法人佼成学園をはじめとする本校の関係者の皆様と、後援会・保護者会の方々、宿利トレーナーをはじめとするスタッフ陣の厚いバックアップもまた、私たちを大いに心強くしてくださいました。

それにしても、今回の優勝は実力ではなく、まったく運が良かったとしか言いようがなく、準決勝・決勝は勝利の女神が私どもに笑顔を見せてくれたせいだと思っています。それは何よりも、準決勝が第一延長、決勝が第二延長というスコアが物語っており､私も選手も自惚れなど微塵もありません。選手たちが実力以上の伯仲した試合をしてくれたことは、応援席からの熱い声と支援してくださっている日頃の恩情へ応えようという思いだったと考えております。

私事ですが、チーム力の向上には、なによりも私自身の指導技術力を磨き、鍛え、高めなければならないと、とくにこの数年、自己改革に努めてまいりました。そのように私の思いを改めさせる一因となったのは、卒業生たちでした。彼女らの何げない一言一言が、私を勇気づけたり反省させたりして、今回の初優勝への道へ導いてくれたのだと考えております。優勝を祝ってくれる彼女らに囲まれて、本当に自分は幸せ者だと感慨にふけっております｡ありがとうございました。

## 戦　　評

■男子準決勝

**不来方　40（19-16,21-16）32　桃山学院**

前半は桃山学院２番工藤の得点でスタート。その後、桃山学院は不来方の高いディフェンスに苦しみ、得点を決めた後も不来方のクイックスタートで点差を詰めることができなかった。不来方は１番遠藤の好セーブと10番安倍のシュートが要所で決まり、３点リードで折り返した。後半は、７分までに不来方６番立花の４連続ゴールなどで一気に突き放し、最後まで集中力を切らすことなく、粘る桃山学院を振り切り、決勝進出を決めた。

**北陸　31（15-15,16-9）24　香川中央**

試合開始から両チームともスピーディーな攻撃でシュート場面を作るが、北陸GK友兼・香川中央GK出原がともに好セーブを連発し、全く互角の展開で前半を同点で折り返した。後半も両チームGKのセーブが冴え、非常に引き締まった試合展開となった。しかし５分過ぎから、速いパスワークで攻撃を組み立てる北陸が４連続得点を奪い、高い攻撃力を発揮した。一方、香川中央は勝負所でのらしからぬミスが最後まで響く形となり、熱戦にピリオドが打たれた。

■男子決勝

**不来方　30（13-13,17-16）29　北陸**

昨年大会の決勝カードが再現した男子決勝は、不来方５番内野のサイドシュートで先制するも、すぐさま北陸は11番中野の7mTで同点とする。その後は両チームGKの好セーブが光り、互角の展開で前半を折り返した。後半は得点しても、クイックスローオフによる反撃で取り返す一進一退の展開が続いたが、初優勝に燃える不来方がエース安倍を中心とした攻撃で15分過ぎに３連取で抜け出し、多彩な攻撃で粘る北陸に対してスピード溢れる速攻を展開して振り切った。

■女子準決勝

**佼成学園女子　30（10-12,15-13,2-2,3-2）29　星城**

試合開始直後は、両チームとも固さが目立ったが、ねばり強いディフェンスからの速攻でリズムをつくり、星城が前半を２点リードで終了した。後半10分過ぎの星城の退場を境に佼成がリードを奪ったが、タイムアウト後、星城も粘りを見せ同点のまま延長戦に突入した。延長前半も一進一退の競り合いが続いたが、延長後半、佼成６番長谷川、５番シンの連続得点でリードを奪い、最後は４番河原畑のステップシュートが決まり、粘る星城を振り切った。

**高岡向陵　27（13-15,14-9）24　名経大市邨**

開始早々、高岡向陵は北原・奥田のミドルシュートで先制するも、名経大市邨は藤原のステップシュートで応戦する。10分過ぎに市邨の３連取で抜け出すかに思われたが、高岡向陵も３連取で応戦し、一進一退の攻防を続ける。20分過ぎには市邨のポストプレーが機能し着実に加点する。一方の高岡向陵は場面を作るもGKの好セーブに阻まれた。後半は３連取で抜け出した市邨だったが、必死に追いすがる高岡向陵を振り切ることができず、粘った高岡向陵は残り８分、鮮やかな５連取で逆転し勝利をおさめた。

■女子決勝

**佼成学園女子　33（12-11,13-14,1-2,2-1,2-1,3-1）30　高岡向陵**

女子決勝は高岡向陵５番長江の得点でスタート。動きの固い佼成に対し、高岡向陵は22分からの４連続得点で引き離すかと思われたが、１番八木の好セーブや６番長谷川のサイドシュートなどで４連続得点した佼成の１点リードで前半を終了した。後半は、佼成が一時４点差まで引き離したが、高岡向陵３番北原の得点などで19分に逆転。その後一進一退の競り合いが続き延長戦に突入した。第一延長でも互いに譲らず第二延長へ。第二延長後半、佼成６番長谷川のポストシュートが決め手となり、粘る高岡向陵を振り切り初優勝を決めた。

# ～希望と感動 若葉の季節～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

毎年、この時期を迎えると、何かしら新鮮な気持ちになる。周囲の光景は青葉、若葉がいっぱいだからだろうか。職場で、学校で希望に満ちあふれた新しい息吹きを感じるのもこの頃である。こちらの気持ちも何となくリフレッシュしたようになる。

今年も、未来のハンドボール界を担うフレッシュな人材が各カテゴリーで巣立ち、新たな第一歩を踏み出している。

どのようなシーズンが待ち構えているのだろうかと思うと、胸がワクワクしてくるのも、この季節である。初めてハンドボール界に飛び込んだ人もいるはずだ。どのようなイメージを描いて、技術の習得に励んでいるだろうか。

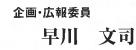
先日、初めてハンドボールの試合を観戦した人が私に語りかけた。

「実に面白いスポーツですね。こんなにスピードに富み、スリリングな競技だとは知らなかった。やっぱり見てよかった。はまってしまったよ」

実にうれしいコメントである。

ハンドボール競技に初めて触れた人にとって“新鮮さ”は何より貴重なことである。今後につながる大切なサポーターとして大事にしなくてはいけないのはもちろんだ。

小学生から社会人まで各カテゴリーのレベルアップはもとより、さらに見て楽しい、プレーして楽しい競技にいっそう努力することが肝心だと肝に銘じたい。

体罰や暴力で揺れる日本のスポーツ界だが、こうした体質からの脱皮が、いま緊急に求められているのは間違いない。新しいスポーツ指導のあり方、強化にハンドボール界が先頭に立って取り組んでこそ、明るい将来が見えてくるのではないだろうか。

特にこの時期はシーズン最盛期に向けての重要な指導期間である。レベルアップには貴重な時。希望に胸を張って取り組んでいるハンドボーラーを泣かせることがあっては大きな損失だ。希望と感動にあふれた若葉の季節のように、未来に向けて団結して若い芽をはぐくみたいものである。

今シーズンは新しく創設されたU－22東アジア選手権をはじめ、近年に始まったジュニア、ユースの世界大会、アジア大会と注目のイベントが目白押しだ。若い力が存分に持てるエネルギーを噴射できる環境を整え、好結果につなげることが、宿願のリオデジャネイロのオリンピック出場にも波及効果をもたらすに違いない。

2013年シーズンを実りあるものにするために、球界挙げて力いっぱい支え、そしてバラ色の未来に突き進んでいきたいものである。

# 協議会参加報告

日本ハンドボール協会 医事委員会

## 平成24年度第1回JISS-NFドクター協議会

**日　時：**平成25年3月1日 18:30～20:30
**場　所：**味の素ナショナルトレーニングセンター
アスリートビレッジ2階　小研修室
**参加者：**井本光次郎（熊本赤十字病院　整形外科）
**議　題：**1）ロンドン五輪医務報告
2）2013年度以降の国際総合競技大会の医務担当（案）
3）JOC派遣前チェックおよび、NF要望によるアスリートチェック
4）JISSクリニックにおける診療について
5）IOC Diploma Program in sports medicine

この会は、各競技団体ドクターと国立スポーツ科学センター（JISS）及び日本オリンピック委員会（JOC）のメディカルに関するネットワークを強化し、日頃のアスリートへの診療、メディカルチェック等の実施において、各団体とのさらなる連携と情報交換を図ることを目的としている。

今回の協議会に参加したのは、18競技団体であり、夏季冬季オリンピック競技に含まれない銃剣道やチェス、カバディ協会などからの参加も見られた。

まず、ロンドン五輪医務報告では、派遣前チェック、医務集計について報告があった。派遣前チェックでは548名に実施されたこと、内科、整形外科的疾患でactiveと診断された選手は大会前にはほとんどが改善されていたことなどが報告された。大会時の医師派遣については、各競技団体からの派遣を含め、選手村内に12名、村外に4名が派遣されていた。医務集計については、大会時、全体で116名のinjury or illnessが報告された。選手村内の医務室には73名が受診し、内科領域では呼吸器疾患が最も多く、整形外科疾患では捻挫が最も多かった。前十字靭帯損傷（バドミントン）やリスフラン関節脱臼骨折（体操）など、競技復帰までに時間を要するような比較的重症の傷害もみられた。

次に、2013年度の国際総合競技大会へ派遣する医務担当者の案が示された。2013年度は国際総合競技大会が6つほど予定されているとのことであり、JISSの医師を中心に構成されていた。

JOCの派遣前チェックについては、メディカルチェック項目に大きな変化はなかった。質問では、コンタクトスポーツなどの競技では、脳震盪後の評価についての国際的な標準的プログラムであるSCAT 2を評価項目として入れてよいのではないかと質問があった。また、心エコーは評価項目に入れておいたほうがよいのではないか、関節弛緩性の検査手技は統一したほうがよいのではないか、などの質問があった。女性疾患の評価項目を増やしていくかについては研究段階であると示された。

JISSクリニックにおける診療について、予約方法などには大きな変更はなかった。

最後に、IOC Diploma Program in sports medicineについての説明があった。これは、IOCがスポーツ医学の専門家を養成しようとする試みであり、帯同ドクターにもこのプログラムの修了者が望ましいとしている。プログラム内容はスポーツ医学全般に及んでおり、講義はネットを使用して行われ、修了までに2年を要する。また、ある程度の英語力が必要であり、年1回ほどのワークショップを世界4か所あるIOC research centerにて行うことが課される。しかし、このdiplomaが帯同ドクターに必須になるということではなく、勉強にはなるかもしれないが、参加料がGBP2,300と高額でもあり、今後どのように参加者を募るかについては考慮中とのことであった。

## 平成24年度日本体育協会　加盟団体スポーツドクター代表者協議会

**日　時：**平成25年3月2日 12:50~16:30
**場　所：**新宿住友スカイルーム
**参加者：**井本光次郎（熊本赤十字病院　整形外科）
**議　題：**1）ドーピング防止活動に関する最新の動向について
2）スポーツ政策の動向について
3）ロンドンオリンピックにおける医・科学サポート体制について
4）日本体育協会からの報告事項
5）分科会　各競技における安全管理、スポーツ外傷・障害の予防への取組みについて

今回、平成24年度日本体育協会スポーツドクター代表者協議会に出席してきたのでその内容について報告する。

まず、今回のロンドンオリンピックにおけるドーピング検査について報告があった。検査数は尿と血液合わせて5132検体が検査され、ドーピング防止規則違反（ADRV）とされたのは8検体と前回の北京オリンピック（検査数は今回とほぼ同数）の19検体から大幅に減少した。日本において平成24年度にADRVとされた6件のうち2件はハンドボール関係であり、それぞれ医師処方のクロミフェンと市販薬に含まれたメチルエフェドリンが検出物質であった。資格停止はどちらとも3ヶ月間であった。ハンドボール界においてドーピングに関する更なる指導・教育が重要であると思われた。

スポーツ政策の動向については、2011年に制定されたスポーツ基本法やスポーツ基本計画2012について説明が行われた。特に、国際競技力の向上に向けた人材養成やスポーツ環境の整備について、NTC、JISSがどのように関わっているのかについて説明がなされた。

ロンドンオリンピックにおける医科学サポートについては、前日に行われた平成24年度第1回JISS-NFドクター協議会での内容とほぼ同じであったため、そちらの報告書を参照されたい。

日本体育協会からの報告事項では、平成25年度より日体協スポーツデンティスト養成制度が開始されることが報告された。

最後に、分科会において、各競技における安全管理、スポーツ外傷・障害の予防への取組みについてそれぞれの団体からの報告があった。ハンドボールからは、NTCでのメディカルチェックの取組みについて報告した。特に質問などはなかった。

# ハンドボール競技におけるドーピング検査（競技会検査）の流れについて

日本ハンドボール協会 医事委員会

今回は、ハンドボール競技におけるドーピング検査（競技会検査）の流れについて、簡単にご紹介します。"どうやってする試合を決めているの？"、"どんな人が検査の対象になるの？"、"ドーピング検査ってどんな風にするの？" といった点を説明します。

## 1．検査日程の決定まで

検査日程は、すべて日本アンチドーピング機構（以下JADA）により決定され、日本協会、アンチドーピング特別委員会と調整され、検査が施行されます。今回我々が施行したアンチドーピングに関するアンケート調査において、たくさんの方から "検査のある日を教えてほしい" という質問が寄せられていました。しかし、検査日程が事前にわかれば、検査に向けた不正行為も可能になります。ですので、検査日程が事前に明らかになることはありません。チームの皆さんにしてみたら、"急に試合の後に検査なんて…、この後の予定あるのに" という気持ちからのこうした要望だと思いますが、この要望がかなう可能性はありません。ですので、日本協会は今年度から検査による予定変更等にかかる必要経費を申告していただき、条件を満たせば負担することになりましたので、ご理解いただければと存じます。

## 2．検査に関わる人

- JADA 職員
- Lead DCO：当該検査に関わる責任者（JADA より派遣）
- DCO（ドーピング・コントロール・オフィサー）：検査員
- シャペロン：検査補助員（選手のエスコート係）
- NFrep（National Federation Representative 日本ハンドボール協会からの代表者）：検査において、選手を保護する立場、また、JADA と大会関係者との調整を行う連絡役です。検査にかんして疑問、不快に思った際にその窓口となってくれます。

## 3．検査の流れ（競技会検査）

### A：検査対象選手の決定

大会期間中は、そのすべてが対象期間となり、原則 "事前通告なし" で行われます。ベンチ登録された選手全員が、検査の可能性があります。その中から、抽選による検査対象選手の決定、または、試合中の言動行動から検査すべきと判断された選手、さらに失格を判定された選手がその対象となります。

抽選は、試合後半終了の約 10 分前に、NFrep の立ち会いのもとで、Lead DCO がチーム役員に背番号が書かれたくじを引いていただきます（くじを引く役員をハーフタイムに伺いますので、あらかじめお教えください）。くじの結果は、試合終了までわかりません。

失格を判定された選手、試合中の様子により検査が必要と判断される選手は、試合終了直後に、審判員にも意見を求め、Lead DCO と TD が協議の上、最終的に Lead DCO により決定されます。そのため、検査対象試合では、失格判定後は、決められた場所でシャペロンの監視下のもとでとどまる必要があります。

### B：通告から検査室まで

試合終了後、検査対象となった選手は、"通告" をうけます。通告を受けた以降は、DCO、シャペロンの指示に従って下さい。選手には "同伴者をつける権利" があります（未成年者の場合は必ず成人の同伴者をつけます）。

通告後は、DCO またはシャペロンの視野内にいることが義務となりますので、注意して下さい。

基本的には、通告後は速やかに検査室に移動することになりますが、ミーティング、表彰、メディア対応、着替えなどの正当な理由があれば、終了後に検査室に行くことが可能ですので、その旨をお伝えください。

- DCO、シャペロンの監視下を離れること
- 不用意に検査室への到着を遅らせること
- 検査を拒否すること

これらは全てドーピング違反になる可能性がありますので、ご注意ください。

### C：検査室への入室

検査室へは、上述した検査に関わる人の他には、検査対象選手および同伴者しか入れません。

入室後は、検査手続きに関する書類の作成を行います。その際には選手証が必要になりますので持参ください。

現時点では、ドーピング検査は尿検体を用いて行われます（今後は血液での検査も検討されています）。試合後ということもあり、なかなか尿意を催すまでには時間が必要です。検査室には、水分も準備されていますので、自己責任の上飲んで下さい（その際には、必ず未開封であること、3本以上ある中から自分で選んでください）。待ち時間は、何を摂取してもかまいませんが、全て自己責任となります。

### D：検体採取から封印作業

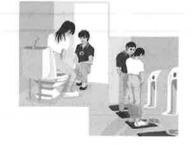
1　手洗いの方法、採尿カップの選択方法など、DCO（検査員）の指示に従ってください。
2　採尿カップの選択では、最低３個以上の中から選択をしてください。
3　採尿カップの選択では、競技

者（選手）本人はもとより同伴者も一緒に確認をし、面倒でも以下の点に注意をして選択します。また、交換や追加を要請する権利もあります。

①採尿カップ・蓋の外装の破損や著しい汚れがある。

②採尿カップ内や蓋に、汚れや異物がある。

4　開封した採尿カップや蓋の内側は、不用意に触れないでください。追加検体の対象となります。

5　採尿現場（トイレ）には、同性のDCO（検査員）が立会います。立会いDCO（検査員）の指示に従ってください。

6　カップの選択⇒トイレへの移動⇒採尿⇒検査室への移動⇒封印作業、この流れの中では、競技者・DCO（検査員）がお互いに検体を視野に留めておくことになっております。互いの視野から外れた場合、追加検体の対象となるので注意してください。

7　封印作業の中の分注作業（2つのビンに分けて入れる作業）前に、不用意に同伴者の方はカップ触らないようにしてください。検査員は封印されたボトルの封印具合を必ず確認しますが、疑問がある場合は最後にコメントを残してください。

8　検査キットの選択も、最低3個以上の中からしてください。

9　検査キットのボトルの内側やキャップの内側は、不用意に触らないでください。

10　採尿検査の終了は、検査対象物の比重（現在は電子比重計で1.005以上）と、量（現在は90ml以上）が規定値をクリアし、それらの注入作業から封印作業までが採尿の作業になります。

E：公式記録書の作成

1　公式記録書は、検査の重要な証拠となります。

2　公式記録書の内容について、DCO（検査員）は競技者（選手）本人と同伴者に説明をする義務がありますので、安易に・妥協して・あいまいなまま公式記録書の作成を進めないように注意してください。

3　競技者（選手）本人と同伴者は、検査手続きの最後に、手続きに関する見解（コメント）を別紙に記載できます。母国語での記載でかまいませんので、疑問や不審な点を記載してください。

4　公式記録書の最終署名は、競技者（選手）本人と同伴者が公式記録所に間違いがないこと等確認した上でおこなってください。

※海外での国の威信のかかった国際大会では、特に以下の点に注意をしてください。

①競技終了以前の通告が、恣意的なものではないかどうか。

②競技者（選手）本人と同伴者が検査室に入る時に、不審者がいなかったか。

③採尿カップの選択が、競技者（選手）本人が納得できる状態でおこなわれたか。

④その他、検査が競技者（選手）本人の不利になるよう進められたことはないか。

このようにして、検査は進められます。早い人で1時間程度、これまでハンドボール競技に関係してのドーピング検査では、最長5時間ほど要した選手もいました。

以上のように検査は進みます。イメージをつかんでいただくことはできましたか？　検査は厳格に進められます。ハンドボール競技がクリーンであること、競技者がクリーンであることを証明する大切な検査です。どうぞご理解のほどよろしくお願いします。

# 平成24年度（財）J.H.A公認審判員社会人連盟レフェリーコースを受講して

山口県ハンドボール協会　東　慶一

まず始めに、今回、ご尽力いただきました越田義昭審査指導委員長、吉田敏明社会人連盟審判長、横山英則社会人連盟事務局長を始め、社会人ハンドボール連盟の方々、また愛知県協会の皆様に厚く御礼申し上げます。

この度、2月9日（土）から11日（月）まで、愛知県一宮市で行われた社会人ハンドボールチャレンジ2013大会におきまして、平成24年度（財）J.H.A公認審判員社会人連盟レフェリーコース（B級審判員審査）を受講させていただきました。

日程は、大会前日の2月8日（金）から始まりました。

まず、吉田敏明氏、横山英則氏によるレフェリーに関する基本的事項、レフェリングにおける任務、判定基準等についての講義がありました。私たち元社会人選手の特性を把握され、選手目線からアプローチをしてくださったので、その説明は本当に解りやすく、一つ一つが身に染み込むような有意義な講義内容でした。今まで、自分が選手としてプレーする時には感じることができなかったこと、気に掛けることがなかったことを理解し整理できたことが受講にあたり一番の収穫となりました。

改めて思うと、前日の講義があったからこそ、自分なりに落ち着いて翌日の実技審査に臨めたのではないかと思います。

東サヤカ・久野葵ペアは4試合、私は3試合を期間中に吹笛させていただきました。

私は当初予定していたペアとの都合が合わず、急遽、愛知県協会（大同特殊鋼（株））の松本さん、南川さんと交互にペアを組ませていただきました。南川さんは、私が湧永製薬（株）に入りたての頃に大同特殊鋼（株）の選手として既に活躍されており、勿論、対戦相手、いわば敵だった方です。

そのような方と今回ペアを組ませていただき、レフェリングについてのこと、選手時代の心境などについて意見交換できたことは、実技審査とは別の意味で、今後のハンドボール人生のプラスとなりました。選手時代にライバルとして戦ってきた選手とハンドボールを通じ、また違った形で関わり合えることは本当に有り難い事だと感じました。

そういった意味でも、このようなレフェリーコースを構築してくださった社会人連盟には感謝しなければなりませんし、生意気かもしれませんが、私たち引退した選手に対しこのようなチャンスの場を与える試みが、日本ハンドボール界の発展にも繋がるのではないかと感じました。

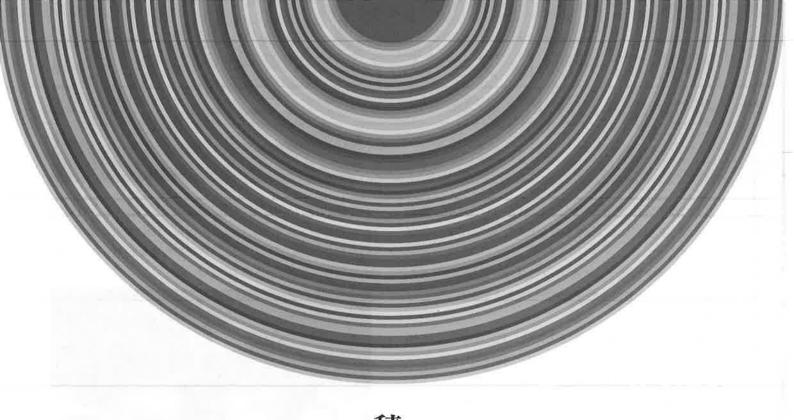
少し話は脱線してしまいましたが、ゲームの吹笛にあたり、試合前、ハーフタイム時、試合後など大会を通じて、越田義昭氏、吉田敏明氏、マッチバイザー等の方々からアドバイスをいただいたことで、課題もたくさん出てきましたし、目標も明確に立て易くなりましたし、自己分析もし易くなりました。合否は別として今後のレフェリー活動をしていくうえでの糧となったことは勿論のこと、レフェリーとして新たな発見の中で、短い時間ではありましたが成長できたのではないかと感じています。

今後は現役選手に負けないようにレフェリング技術の向上を図り、選手が思う存分実力を発揮し観客を魅了する試合を展開できるように、頑張っていきたいと思います。

最後になりましたが、我々3人の拙いレフェリングで思うような結果を残せなかったチームや、持てる力を発揮できなかった選手も沢山いらっしゃったのではないかと思いますが、酷く荒れた試合やスポーツマンシップに反するようなプレーもなく、また、一番心配していた大きな怪我もなく、大会を終えられたことに感謝しております。

更なるレベルアップのため、また、元社会人選手としてのプライドを掛けて日々精進して参りたいと思いますので、今後ともご指導の程、宜しくお願い申し上げます。

ありがとうございました。

今回、受講した3名の社会人チーム出身者。
東（ひがし）慶一（のりかず）（湧永製薬）、久野（くの）葵（あおい）（オムロン）、東（あずま）サヤカ（ソニーセミコンダクタ）

# 2013コーチレフェリーシンポジウム報告

指導委員会

平成25年3月2日（土）・3日（日）に駒沢大学会議室において、2年ぶりにコーチレフェリーシンポジウムを開催いたしました。

年度末、また次週プレイオフ、ハンドボール学会を控えた日程の中で、50名前後の参加者をいただき無事終了することができました。

今回のシンポジウムの主題としては、初日は昨年8月29～31日にカタールのドーハで行われたIHFのコーチ・レフェリーシンポジウムの内容報告、二日目は、日本のハンドボールの競技力向上のためにコーチとレフェリーサイドから、それぞれどのような役割を果たすべきかの方向性を見いだすためのパネルディスカッションを企画いたしました。

なお、第一部のIHFのシンポジウム報告に関しては、協会参事である村松氏が今回協会から派遣され、多くの貴重な映像資料を持ち帰られたものを指導委員会、審判員会が協力して訳し、今回の発表資料ならびに講習会資料を作成したものを利用いたしました。

具体的な内容は以下の通りでした。

## 3月2日（土）（午後13時開会）

開会にあたり川上専務理事から、昨今スポーツ界で話題となっている「体罰」に関して、JOCの立場、日本体育協会の張会長の公表された各競技団体への伝達を含め、今後のハンドボール協会のこの件に関する方向性、そしてこのような研修会において「指導者の意識改革」の必要性を含めた挨拶があった。

それに続き、角常務理事、笹倉指導委員長、藤井審判部部長から挨拶があった。

**講習1（コーチ関連報告）**

講義1ではIHFシンポジウムに参加された村松氏が、IHFシンポジウムの全体的な内容の説明と、講習会にて3日間行われたロンドンオリンピックの分析（D,Spate/F,Taborsky）の内容を今回の資料のPDFファイル内容を説明しながら傾向としての4ポイントの報告があった。

**講義2（コーチ関連報告）**

講義2では同じくIHFシンポジウムから、スペインのコーチであるT.Dushebaevによる「スペインの防御哲学」について、今回報告資料を作るにあたり中心的な役割をしていただいた吉村晃氏（公認コーチ；デンマーク留学、EHF指導者研修会参加経験）から報告があった。吉村氏のもっているスペインのクラブチームやその他の過去の映像を裏付けとしながら、今回の報告資料の報告があった。

**講義3（審判関係）**

この講義では、福島競技規則研究員会委員長よりIHFコーチレフェリーシンポジウムにおける「2010年度版競技規則における罰則の適用に関して」講習会資料1を全員で見ながら解説があった。

**講義4（審判関係）**

この講義では、檜崎競技規則研究員会委員より講義3同様に、シンポジウムでの「攻撃の違反」に関して講習会資料2を見ながら解説があった。

## 3月3日（日）

この日は、「日本のハンドボール競技力向上、そして魅力あるハンドボール」を主題に起きながら第一部ではコーチサイドからの提案として、現ナショナル男女監督である清水氏、栗山氏から国際大会へ出場し、そこで感じた国外、国内の判定のギャップをテーマに、そして第二部ではレフェリーサイドからベンチへの提案からパネルディスカッションを進めた。第一部、第二部の座長としては、藤本氏（筑波大学男子監督）にお願いし、フロアーとパネラーとの意見交換を含め進行をつとめていただいた。

第一部　ここでは以下の３つの提案を中心にコーチサイド、レフェリーサイドの共通理解を持てるようディスカッションした。

1．防御のコンタクトの強さ
2．攻撃側のブロックによる反則について
3．オーバーステップ
　ドリブルなしから
　ドリブル後から

第二部　ここでは

1．コミュニケーションのとり方
2．コーチのルール理解の必要性

## コーチレフェリーシンポジウムに参加して

田渕　元雄

私自身、レフェリー研修会などに参加いたしますが、このようなシンポジウムに参加することは、初めの体験でありました。さらに、レフェリー側のパネラーとして参加させて頂き、どのようなディスカッションになるのか、初めてのことばかりで、緊張しておりました。未熟者ですので、果たして私がパネラーで良いのかと疑問に思う部分もありましたが、そんな緊張の中でとても良い経験をさせて頂きました。

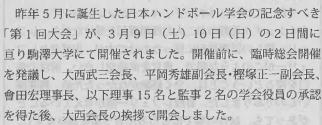
今回、２日目のパネルディスカッションにおいて、現男女ナショナル監督のお二人の問題提起を受けながら、レフェリー側への話題提起に移ったわけですが、指導者とレフェリーがこのような場で、意見を直接交し合い、解決の糸口を探るということは、全く経験がなかったため、興味深いものでありました。普段レフェリー側が考えていることがあっても、試合の場ではもちろん言う事を慎みますし、お互いに意見を交換し合うということは、現実的に難しいことでありました。このような場を与えて頂き、また参加のレフェリー、コーチの方々からも疑問や意見を出してもらい、考えさせられることばかりでした。また、私自身とても勉強になったことは、レフェリーとして考えていることを、言葉にして皆さんに伝えるということです。ここに限ったことではありませんが、「伝える、伝わる」という作業はとても時間がかかることもあります。今回のシンポジウムのように、コーチ側とレフェリー側の思いを共有することで日本のハンドボールの競技力向上に繋がる可能性を垣間見ることができ、その場にいた一人としてうれしく思います。こういった機会がもっと増えていくと、指導者同士・レフェリー同士の交流も増えますし、お互いのことがもっと理解しあえるのではないでしょうか。今後こういった機会が増えることを熱望します。

このシンポジウムに参加させて頂き、改めてハンドボールの奥深さを痛感したと同時に、もっとハンドボールについて勉強をしなければならないと感じました。その気持ちが私だけでなく、コーチ側、レフェリー側にあれば、日本のハンドボール界は、さらに飛躍していくと考えられます。コーチとレフェリーが両輪となり、協力していくことが大切だと痛感いたしました。ハンドボール界の今後に向けて、とても発展性のあるディスカッションだったのではないかと思います。私自身の意見は、皆さんへ伝えることが出来たのか、不安ではありますが、レフェリーという立場から伝えていけるように、これからも精進していきたいと思います。

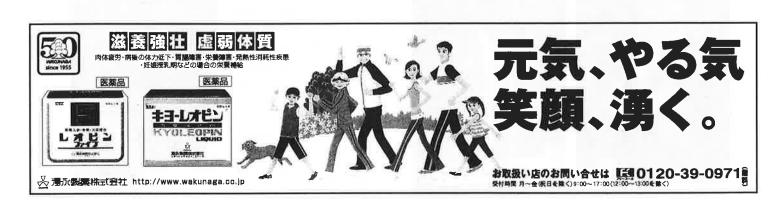
最後になりますが、このような機会を与えて頂きました皆様に感謝しております。ありがとうございました。

# 日本ハンドボール学会第1回大会

実行委員長　田中　守（福岡大学）

昨年5月に誕生した日本ハンドボール学会の記念すべき「第1回大会」が、3月9日（土）10日（日）の2日間に亘り駒澤大学にて開催されました。開催前に、臨時総会開催を発議し、大西武三会長、平岡秀雄副会長・樫塚正一副会長、會田宏理事長、以下理事15名と監事2名の学会役員の承認を得た後、大西会長の挨拶で開会しました。

最初のプログラムは、女子日本代表チームのコーチ・監督を長年務め、スポーツ心理学がご専門である樫塚正一先生（武庫川女子大学教授）による「ハンドボール日本代表女子選手における心理的特徴」と題する基調講演で始まりました。黄慶泳前日本代表監督率いる女子選手にDIPCA3心理検査、エコグラム心理検査、アンケート調査を実施した結果から、競技意欲はベテラン組が安定して高いこと、精神の安定と集中はレギュラー選手の中にもバラツキがあること、決断力と自信は一部のレギュラー選手が優れていること、作戦能力はゴールキーパーと一部のコートプレーヤーのレギュラー選手が低いことなど、非常に興味深いデータが示されました。残念ながら、これらのデータを黄監督に還元していないため黄監督の選手評価と符合するか否かはわかりませんが、黄監督の視点から選手の個性をチーム作りや選手起用に反映させていたことは十分に考えられますので、今回の発表との関連性に興味を持つ質問がいくつかありました。

次のプログラムは、現場の指導者が非常に興味を持つ「サイドシュートを決めるコツ・阻止するコツ」と題するミニシンポジウムでした。演者として、サイドプレーヤーのスペシャリストであった堀田敬章さん（湧永製薬・日本代表・現在北國銀行コーチ）が当初の予定でしたが、都合により急遽下川真良さん（湧永製薬・元日本代表・現在朝日大学監督）に引き受けていただき、阻止するゴールキーパー（以下GK）として熊本世界選手権でシュート阻止率第3位であった橋本行弘さん（本田技研鈴鹿・日本代表）が登壇されました。下川さんは、常にGKやサイドディフェンス、45度ディフェンスの動きをチェックしておくこと、助走はボール捕球後1歩でジャンプすることがGKに十分な位置取りを取らせないこと、ジャンプの方向やシュートコースは様々でGKの位置取りや動きからクイックで頭上を打ったり、脇狙いや溜めてからの逆スピンなど、GKとの駆け引きに興味を引く内容でした。一方、橋本さんは、ゴールポストはボール235個分に相当し、GKの面積を差し引いても209個がゴールインすることからシュートは取れない、との誰も発想しない前提から入り、しかしシューターの様々な特徴（情報）から「選択と集中」により阻止率を格段に上げることができるとする、非常に興味をそそる話しをされました。コーディネイターは、コツ研究の第一人者である會田先生（筑波大学准教授）が行いました。2人の駆け引き（バトル）を演台で行わせるコーディネイトは圧巻で、次回へも継続してほしい意見が出るほど活発な議論となりました。

一般発表演題数は16演題を数え、その内容は、技術・戦術研究が9演題、体力・運動能力研究が3演題、スポーツ医科学研究3演題、その他練習時間に関する研究など、非常に多岐に亘っていました（次頁表参照）。この中から、学会大会賞が選考され、船木浩斗先生（中京大学）の「ハンド

ボール競技のセットディフェンスにおける最終プレーに影響する1対1防御プレー方法に関する研究」と眞下苑子さん（筑波大学大学院）の「大学女子ハンドボールチームにおける痛みの発生状況と練習内容との関係」が受賞されました。全発表終了後の総会において表彰が行われ、併せて既に昨年末に発刊された「ハンドボールリサーチ第1巻」掲載論文の中から、會田宏先生（筑波大学）冨本栄次先生（郡山女子大学）の「卓越したセンタープレーヤーにおける1：1の突破に関する動きのコツ」が学会賞に、松木優也先生（福岡大学）會田宏先生（筑波大学）の「ハンドボールにおける積極的及び予測的防御の特徴」が奨励賞に選考され、表彰されました。

初年度の学会員登録数が112名、今学会大会の参加者数が82名＋α（当日参加）と、教室が満席となる盛況な学会となりました。大会実行委員として準備と運営にご尽力いただいた藤本元先生（筑波大学）辻昇一先生（日本体育大学）八尾泰寛先生（東京女子体育大学）栗山雅倫先生（東海大学）、学会事務局中心に準備と当日運営にご尽力いただいた筑波大学の會田宏先生、山田永子先生、大学院生の皆さん、会場を提供して下さった村松誠先生（駒澤大学）、多くのアドバイスをいただいた大西武三会長、平岡秀雄副会長、樫塚正一副会長、座長を務めていただいた杉森弘幸先生（岐阜大学）齊藤慎太郎先生（大同大学）田村修治先生（東海大学）北岡克彦先生（光仁会木島病院）、そして大会を盛り上げて下さった参加者の皆さんに、誌面をお借りし厚く感謝と御礼を申し上げます。

## 一般発表

**一般発表1　座長：杉森 弘幸（岐阜大学）**　3月9日　11：15～11：51

- 11：15　松木 優也・田中　守（福岡大学）
  ハンドボール選手の跳躍能力の特徴—異なる特性をもつ球技種目との比較から—
- 11：27　成田 龍生（中京大学大学院）・松本 孝朗（中京大学）
  育成年代ハンドボール選手の体力特性
- 11：39　鈴木 康信（福岡教育大学大学院）・池田　修（福岡教育大学）
  トップレベル高校女子ハンドボール選手の形態および運動能力

**一般発表2　座長：齊藤 慎太郎（大同大学）**　3月10日　09：15～10：15

- 09：15　島崎 百恵・平岡 秀雄（東海大学）
  ハンドボールにおけるシュートを決めるコツについて
  —国際レベルで活躍した選手を手がかりに—
- 09：27　田代 智紀（筑波大学大学院）・山田 永子・會田　宏（筑波大学）
  ハンドボール競技におけるペナルティースローの駆け引きに関する研究
- 09：39　中屋敷 彩乃（東海大学大学院）・栗山 雅倫（東海大学）
  ハンドボール競技におけるゲーム分析—時間帯に着目して—
- 09：51　横山 克人（東海大学大学院）・栗山 雅倫・田村 修治（東海大学）
  ハンドボール競技におけるゲーム分析—連続失点に着目して—
- 10：03　船木 浩斗（中京大学）・高橋 豊樹（中京大学大学院）・松木 優也（福岡大学）
  ハンドボール競技のセットディフェンスにおける最終プレーに影響する1対1防御プレー方法に関する研究

**一般発表3　座長：田村 修治（東海大学）**　3月10日　10：20～11：08

- 10：20　舎利弗　学（学法福島高等学校）
  ロンドンオリンピック世界最終予選分析報告
- 10：32　和田　拓（筑波大学大学院）・山田 永子・藤本　元・會田　宏（筑波大学）
  ハンドボール日本代表男子チームの攻撃における課題—韓国に勝利することを目指して—
- 10：44　井上 元輝（筑波大学大学院）・會田　宏（筑波大学）
  ハンドボール競技におけるポストエリアのシュートプレーに関する研究
- 10：56　市村 志朗（東京理科大学）・清水 宣雄（国際武道大学）
  攻撃行動のつながりに注目した攻撃様相分析の試み

**一般発表4　座長：北岡 克彦（光仁会木島病院）**　3月10日　11：13～12：01

- 11：13　眞下 苑子（筑波大学大学院）・山田 永子・會田　宏（筑波大学）
  大学女子ハンドボールチームにおける痛みの発生状況と練習内容との関係
- 11：25　花岡 美智子・栗山 雅倫（東海大学）
  ハンドボール選手に生じた膝蓋骨骨折の症例について
- 11：37　太田 広一・森山 達也（鹿児島大学教育学部）・森口 哲史（鹿児島大学）
  学校体育におけるハンドボール実技中の体重減少について—暑熱環境と飲水状況の検討—
- 11：49　藤本　元・山田 永子（筑波大学）
  ハンドボール競技者における高校時代の練習時間と競技力との関係に対する意識
  —男女差に着目して—

# （公益財団）日本中学校体育連盟「平成24年度 部活動調査集計」より

ハンドボールは；
男子：加盟校数は全国で701校（加盟率；6.6%）、加盟生徒数は全国で19,507人（加盟率；1.07%）
女子：加盟校数は全国で598校（加盟率；5.6%）、加盟生徒数は全国で11,511人（加盟率；0.66%）

（公益財団）日本中学校体育連盟では、平成24年6月1日現在の都道府県実態調査を公表した。統計処理の基礎となる、全国中学校数及び生徒数は平成24年度文部科学省調査資料から、全国中学校数は10,699校、生徒数は男子1,815,653人、女子1,737,031人、合計3,552,684人となっている。

全国中学校の部活動の実態をハンドボールの視点から観ると、以下の実態である。

### 1．学校数と加盟校数

**（男子）**：ハンドボール加盟校は、全国で701校（加盟率；6.6%）であり、加盟校の最も多いのは愛知県の98校、最も少ないのは新潟県・島根県の0校、加盟率で最も高いのは沖縄県の26.7%である。競技別の加盟率で見れば、軟式野球が83.1%、バスケットが67.3%、サッカーが65.0%、卓球が64.1%､陸上が60.2%と60%を超える加盟率である。

**（女子）**：ハンドボール加盟校は、全国で598校（加盟率；5.6%）であり、加盟校の最も多いのは愛知県の89校、最も少ないのは新潟県・島根県の0校、加盟率で最も高いのは沖縄県の21.6%である。競技別の加盟率で見れば、バレーボールが78.6%、バスケットボールが69.6%、ソフトテニスが67.1%と60%を超える加盟率である。

### 2．加盟生徒数

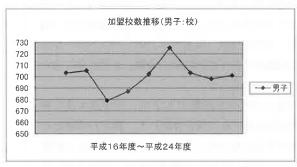
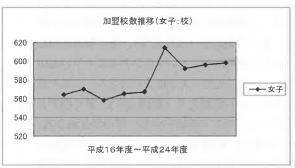
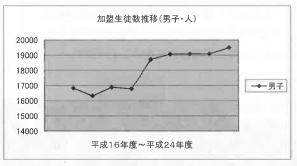
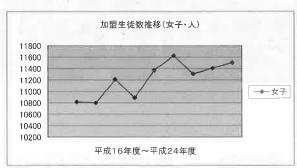
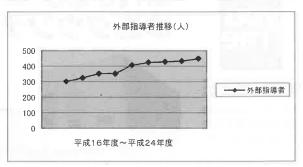
**（男子）**：ハンドボール加盟生徒数は、全国で19,507人（加盟率；1.07%）であり、加盟生徒数の最も多いのは愛知県の3,739人、最も少ないのは新潟県・島根県の0人である。1,000人を超えるのは、神奈川県の1,706人、沖縄県の1,206人、東京都の1,026人である。

**（女子）**：ハンドボール加盟生徒数は、全国で11,511人（加盟率；0.66%）であり、加盟生徒数の最も多いのは愛知県の2,457人、最も少ないのは新潟県・島根県の0人である。500人を超えるのは、神奈川県の829人、沖縄県の754人、大阪府の560人である。

### 3．合同部活動実施校数

ハンドボールでは、2校が合同で部活動を実施しているケースが8つあり、3校以上での合同は無い。他の競技では、バレーボールが153、軟式野球が122、サッカーが69、ソフトボールが57、バスケットが37、ラグビーが34、卓球が16となっている。

### 4．外部指導員数

全国では、18,197人の外部指導員が居り、部活動の指導に当たっている。内、ハンドボールでは、450人の指導員が居り、最も多い愛知県では66人の指導員が居る。次は、沖縄県の58人、岐阜県の52人、富山県の32人、岩手県の30人の順となっている。

# スコアールーム

## 第36回全国高等学校選抜大会

開催期日：2013年3月25日(月)～30日(土)
会　場：静岡県・小笠山運動公園エコパアリーナ

### 【男子】

▼ 1回戦

市立岐阜商業(岐阜) 29(14－3、15－13)16 彦根総合(滋賀)
大分雄城台(大分) 25(10－13、15－11)24 氷見(富山)
富岡(群馬) 39(17－7、22－10)17 清水商業(静岡)
紀北農芸(和歌山) 29(10－12、19－15)27 学法石川(福島)
桃山学院(大阪) 36(18－3、18－8)11 境港総合技術(鳥取)
小林秀峰(宮崎) 31(10－12、21－8)20 聖和学園(宮城)
旭丘(愛知) 35(23－10、12－15)25 境(鳥取)
法政大学第二(神奈川) 29(19－7、10－11)18 盛岡南(岩手)
浦和学院(埼玉) 32(18－12、14－18)30 岩国(山口)

▼ 2回戦

岩国工業(山口) 33(20－18、13－13)31 市立岐阜商業(岐阜)
横浜創学館(神奈川) 36(15－13、21－13)26 長崎日本大学(長崎)
大分雄城台(大分) 31(18－12、13－10)22 函館大学付属有斗(北海道)
不来方(岩手) 28(15－3、13－15)18 富岡(群馬)
藤代紫水(茨城) 44(18－12、26－13)25 紀北農芸(和歌山)
千原台(熊本) 39(18－11、21－21)32 高松工芸(香川)
春日丘(愛知) 39(21－19、18－17)36 駿台甲府(山梨)
桃山学院(大阪) 34(20－19、14－11)30 鹿児島工業(鹿児島)
小林秀峰(宮崎) 28(10－9、18－12)21 府立洛北(京都)
高山西(岐阜) 45(24－13、21－14)27 昭和学院(千葉)
興南(沖縄) 49(25－5、24－9)14 國學院栃木(栃木)
北陸(福井) 42(14－5、28－6)11 旭丘(愛知)
法政大学第二(神奈川) 35(16－5、19－11)16 愛知(愛知)
香川中央(香川) 39(19－15、20－11)26 高岡向陵(富山)
神戸国際大学附属(兵庫) 35(19－17、16－14)31 明星(東京)
瓊浦(長崎) 26(14－13、12－10)23 浦和学院(埼玉)

▼ 3回戦

横浜創学館(神奈川) 31(17－14、14－16)30 岩国工業(山口)
不来方(岩手) 31(18－11、13－14)25 大分雄城台(大分)
藤代紫水(茨城) 35(18－20、17－14)34 千原台(熊本)
桃山学院(大阪) 44(20－14、24－18)32 春日丘(愛知)
高山西(岐阜) 37(19－11、18－15)26 小林秀峰(宮崎)
北陸(福井) 29(10－10、19－9)19 興南(沖縄)
香川中央(香川) 35(17－12、18－15)27 法政大学第二(神奈川)
瓊浦(長崎) 28(14－14、14－13)27 神戸国際大学附属(兵庫)

▼ 準々決勝

不来方(岩手) 35(12－17、23－11)28 横浜創学館(神奈川)
桃山学院(大阪) 35(16－13、19－17)30 藤代紫水(茨城)
北陸(福井) 30(12－13、18－16)29 高山西(岐阜)
香川中央(香川) 24(11－8、13－13)21 瓊浦(長崎)

▼ 準決勝

不来方(岩手) 40(19－16、21－16)32 桃山学院(大阪)
北陸(福井) 31(15－15、16－9)24 香川中央(香川)

▼ 決勝

不来方(岩手) 30(13－13、17－16)29 北陸(福井)

### 【女子】

▼ 1回戦

大分(大分) 23(8－11、15－7)18 大同大学大同(愛知)
明石(兵庫) 28(14－11、14－8)19 暁(三重)
小松市立(石川) 20(6－9、14－7)16 鹿児島南(鹿児島)
清水商業(静岡) 21(11－10、10－8)18 横浜平沼(神奈川)
昭和学院(千葉) 20(11－9、9－10)19 宮崎学園(宮崎)
高津(神奈川) 34(15－5、19－2)7 松江南(島根)
飛騨高山(岐阜) 29(14－9、15－9)18 浦和実業学園(埼玉)
日川(山梨) 26(13－10、13－5)15 羽後(秋田)
四日市四郷(三重) 29(15－7、14－8)15 福岡女子商業(福岡)

▼ 2回戦

大分(大分) 28(8－9、14－13)26 高松商業(香川)
(3－1　延長　3－3)
水海道第二(茨城) 35(18－13、17－14)27 高水(山口)
佼成学園女子(東京) 26(18－13、8－9)22 明石(兵庫)
小松市立(石川) 24(13－10、11－10)20 不来方(岩手)
清水商業(静岡) 26(21－8、5－13)21 北海道札幌月寒(北海道)
安積(福島) 38(18－14、20－9)23 東温(愛媛)
奈良市立一条(奈良) 34(18－12、16－9)21 米子東(鳥取)
星城(愛知) 21(11－8、10－10)18 昭和学院(千葉)
四天王寺(大阪) 30(11－12、19－10)22 高津(神奈川)
熊本国府(熊本) 38(16－11、22－7)18 城北(徳島)
学法福島(福島) 29(14－19、15－9)28 夙川学院(兵庫)
高岡向陵(富山) 29(16－5、13－8)13 飛騨高山(岐阜)
那覇西(沖縄) 44(26－8、18－11)19 日川(山梨)
名古屋経済大学市邨(愛知) 23(10－12、13－10)22 府立洛北(京都)
文化学園大学杉並(東京) 31(18－11、13－11)22 福井商業(福井)
岩国商業(山口) 17(7－7、10－7)14 四日市四郷(三重)

▼ 3回戦

水海道第二(茨城) 26(14－7、12－13)20 大分(大分)
佼成学園女子(東京) 25(13－8、12－6)14 小松市立(石川)
安積(福島) 29(16－12、13－16)28 清水商業(静岡)
星城(愛知) 45(23－9、22－10)19 奈良市立一条(奈良)
四天王寺(大阪) 27(17－9、10－12)21 熊本国府(熊本)
高岡向陵(富山) 30(15－12、15－7)19 学法福島(福島)
名古屋経済大学市邨(愛知) 30(17－16、13－13)29 那覇西(沖縄)
岩国商業(山口) 24(14－9、10－10)19 文化学園大学杉並(東京)

▼ 準々決勝

佼成学園女子(東京) 32(16－9、16－12)21 水海道第二(茨城)
星城(愛知) 37(17－11、20－12)23 安積(福島)
高岡向陵(富山) 25(12－9、13－11)20 四天王寺(大阪)
名古屋経済大学市邨(愛知) 21(12－6、9－8)14 岩国商業(山口)

▼ 準決勝

佼成学園女子(東京) 30(10－12、15－13)29 星城(愛知)
(2－2　延長　3－2)
高岡向陵(富山) 27(13－15、14－9)24 名古屋経済大学市邨(愛知)

▼ 決勝

佼成学園女子(東京) 33(12－11、13－14)30 高岡向陵(富山)
(1－2　延一　2－1)
(2－1　延二　3－1)

## がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」3月入会・継続会員

【北海道】小島収治、加藤慶仁【福　島】今野雅益【茨　城】稲吉　繁、田中汀子、菊田政行
【埼　玉】高田　誠【千　葉】勝俣裕二、吉田　修【東　京】森松誠二、飯田信行、田村公孝、西岡雅樹、山崎貴士【神奈川】杉山義祥、植村　繁、渡邊亜由美、平岡秀雄【静　岡】宮岸健次【愛　知】西村亮治
【兵　庫】川原崎雅彦、丸茂康子【高　知】有光正憲【長　崎】藤山聖子

## 【5月・6月の行事予定】

**【会議】**

5月12日(土)　常務理事会
6月8日(土)　第1回評議員会
6月15日(土)　第1回理事会

**【大会】**

5月28日(火)
日韓代表国際交流定期戦（韓国・ソウル）
5月30日(木)～6月4日(火)
第1回U－22 東アジア選手権（男女）
（韓国・天安市）
6月23日(日)～30日(日)
第12回女子ジュニアアジア選手権
（カザフスタン・アルトマイ）

## HAND BALL CONTENTS May.



（登録チームの購読料は登録料に含む）

（公財）日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』第五三五号

平成二十五年四月二十六日印刷
平成二十五年五月一日発行

東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表〇三－三四八一－二三六一
振替 〇〇一二〇－七－一〇一九三

編集兼発行人 川上憲太

定価 年間三三〇〇円